

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 白石市立小原小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-0233

宮城県白石市小原字伊勢原道上1

E-mail info@obara-e.shiroishi-c.ed.jp

Website http://obara-e.shiroishi-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 6名 女子 9名 合計 15名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ふるさと小原から世界へ」を学校理念として、ESDの実践を通して自ら考え、判断し、表現できる力の育成を目標とした。

具体的には、郷土の歴史学習を柱に郷土の歴史に係わる活動を行った。

### ① 郷土の伝統文化、文化遺産に係わる活動

本校が位置している宮城県白石市小原地区は江戸時代の歴史的建造物や宿場町、街道の名残が見られる地区である。その中でも、上戸沢と呼ばれる集落は近世、江戸時代を通じ「山中七ヶ宿通」と言われ、奥羽13名の大名が往来した、七ヶ宿の宿駅の一つである。このような歴史的背景を学ぶため、本校5・6年生と、同じ敷地内にある小原中学校の1年生が旧宿場町を訪れ、歴史的建造物や街道の様子について学習した。

## ② 健康・福祉に係わる教育

本校の学区は中山間地にあり人工の減少と少子高齢化が進んでいるが、地域住民には純朴な方が多く、人と人とのつながりを大切にしていこうとする美風や、学校の教育活動を地域全体で支えていこうとする風土がある。本校では「地域と共に歩む教育活動」を学校経営の柱に据え、様々な活動に取り組んでいるが、その一つに「みんなで遊ぼう会」を実施している。児童が様々な「遊び」を企画し、保護者や地域の高齢者を招待して交流を深めることで、思いやりの心や優しさを育むことをねらいとしている。今年度も多くの地域の方が学校に訪れ、児童と触れ合いながら様々な遊びを楽しむ姿が見られた。



① の写真（地域の歴史的建造物の調査活動）



② の写真（地域の方を招いた交流活動）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では総合的な学習の時間と特別活動（児童会活動）にユネスコスクールとしての活動を位置付けている。年度初めに各学年で学習内容の方向性を決定し、PDCAサイクルに乗っ取り活動ごとに見直しと改善を重ねながら活動を進めている。また、学習内容を決定する際は郷土の自然や歴史に基づいた活動や、地域の方々との触れ合いを大切にした活動になるよう配慮している。
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール担当という校務分掌を設け、その担当者がユネスコ協会との連絡調整や、学年ごとの総合的な学習の時間における学習内容の把握などにあたっている。また、本校と同じ敷地内にある小原中学校と学年の枠を越えて活動するので、中学校の担当者とも密に連携を図っている。
---

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価方法としては、活動ごとに担当者間がPDCAサイクルに基づき、活動の振り返りを行うと共に、学校評価（教職員評価、保護者による評価、児童・生徒による評価）にユネスコスクールの項目を設け、評価をしている。成果としてはユネスコスクールとしての活動を通して、郷土を愛する心情を十分に育むことができた反面、指導者間で活動の方向性や最終的な目標を明確にすべきであったという点が挙げられている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

今年度は外部に向けて積極的な発信は行わなかった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

今年度は他団体と連携を図って活動を進めることはしなかった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は国内外のユネスコスクールとの積極的な交流は行わなかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

郷土の歴史に関する学習，福祉に関する活動の双方とも学年の枠を超えて実施していることに大きな意義がある。上級生が下級生に教えながら共に活動していく中で，他者と協力しながら物事をやり遂げる心情を育むことができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

次年度からは総合的な学習の時間で2つ新しい活動を取り入れる。1つは環境に関する教育活動で，学区の「水」「森」「土（ゴミ）」を「小原の環境3要素」とし，児童は「小原の環境3要素を知ること」を学習テーマに小5から中1の3年間を見通して学習を進めていく。単に知識を増やすことを目的にするのではなく，体験や体感を重視した探求や実践を積み重ねる課題探求型の学習を設定し，「小原を知り，小原を愛する児童・生徒」の育成を目指す。平成30年度は「水」をテーマとし，体験活動と調査活動を中心に，地域が抱える課題を自分の問題として捉え解決への方策を考えて発信する力や，小原から世界へ目を向け，世界で生じている諸問題の解決に向けて行動しようとする態度の育成へとつなげていく。

2つ目は中学年を中心に社会福祉協議会と連携をとりながら，キャップハンディ体験を実施する。体験活動をスタートに，ユニバーサルデザインについて学んだり，公共施設の調査活動をしたりすることで，思いやりの心を育むだけでなく，共生社会の形成について考えさせたい。